

事業実施報告書

法人名 NPO 法人こどもエコクラブ飯能W

事業名	すべての子供に地域で学習支援事業
助成事業の種類	SDGs推進事業・豊かさ分野
1.事業の目的	<p>1、長引くコロナ禍で不登校の子供が増加傾向にある。子どもやその家族は不安を感じ閉じこもりがちになり社会との交流も遮断してしまう。様々な環境下にあるすべての子供達に安心して学習に取り組める居場所をつくる。</p> <p>2、児童養護施設で暮らすお子さんは放課後、塾に通えない。意欲のあるお子さんには学習する場が必要。</p> <p>3、夫婦共稼ぎ世帯が増える中、放課後や長期休暇中、小学生の居場所が少ない。学習支援や体験学習を地域でサポートし色々な大人と関わる事が子供の成長に必要な。</p>
2.事業で取り組んだ地域や社会の課題	<p>1、不登校のお子さんは気持ちの変化が激しく支援しようと思った日程が変更、中止になるケースが多々発生した。</p> <p>2、個人情報の観点から別の機関と情報共有する事が難しい。</p> <p>3、安心、安全に子ども達と過ごせる場所の確保が難しい。</p> <p>4、コロナ禍で支援対象の子どもが熱が出たり、スタッフや会場の職員が体調不良で活動ができなくなる事があった。</p>

3. 取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果

- (1) 不登校の地域の子供に学習及び体験学習を実施
 趣旨・不登校の子供に学習の場・人との交流を提供
 実施期間・令和4年7月7日～令和5年2月28日
 対象者・不登校の子供及び家族（基本的にマンツーマンでの対応）
 場所・児童養護施設同仁学院
 参加数・17名（地域の居場所づくり参加も含む）
 外部の協力者、団体・児童養護施設同仁学院、一般の方
- (2) 児童養護施設同仁学院に入所している子供達に学習・体験を実施
 趣旨・施設の子供達に学習の場・体験学習を実施
 実施期間・令和4年8月18日～令和5年2月20日
 対象者・児童養護施設「同仁学院」に入所している子供
 場所・児童養護施設同仁学院
 参加数・48名
 外部の協力者、団体・児童養護施設同仁学院
- (3) 地域で小学生が放課後、学習・体験できる居場所づくりを実施
 趣旨・地域の子供達に学習の場・体験学習を実施
 実施期間・令和4年7月23日～令和5年2月28日
 対象者・地域の小学生及び家族
 場所・天覧山周辺、飯能市公民館、飯能河原、萬福寺、大川学園、南高麗福祉センター
 参加数・310名
 外部の協力者、団体・飯能市教育委員会、飯能市社会福祉協議会、市議会議員、地域の専門知識をもった方々、地域の高校生・大学生、萬福寺

時期	内容
7月13日	不登校の子供体験学習（石けん作り）
15日	不登校の子供体験学習（メイクレッスン）
23日	夏休み地域の小学生体験学習（夜の探検）
26日	夏休み地域の小学生体験学習（ランタンづくり）
27日	夏休み地域の小学生体験学習（水質調査）
28日	夏休み地域の小学生体験学習（押し花教室）
29日	夏休み地域の小学生体験学習（花育）
8月15日	不登校の子供体験学習（メイクレッスン）
18日	児童養護施設体験学習（ディンプルアート&押し花）
9月8日	地域の居場所づくりスタート
10月13日	地域の居場所づくり
24日	児童養護施設学習支援スタート

	1 1月7日 10日 23日	児童養護施設学習支援 地域の居場所づくり 地域の小学生体験学習（花育）	
	1 2月8日 12日 23日 26日 27日	地域の居場所づくり 児童養護施設学習支援 冬休み地域の小学生体験学習（Xmas ケーキ作り） 児童養護施設学習支援（書き初め） 冬休み地域の小学生体験学習（書き初め）	
	1月5日 6日 12日 16日 30日	冬休み地域の小学生体験学習（布バック作り） 冬休み地域の小学生体験学習（花育） 地域の居場所づくり 児童養護施設学習支援 児童養護施設学習支援	
	2月3日 6日 9日 11日 19日 20日 28日 28日	不登校の子供体験学習（節分） 児童養護施設学習支援 地域の居場所づくり 不登校の子供体験学習（調理実習） 居場所づくりイベント感謝祭 児童養護施設学習支援 地域の小学生体験学習（ピラティス） 不登校の子供体験学習（メイクレッスン）	
<p>広報実績について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10月飯能市教育委員会・飯能市社会福祉協議会の後援を得て「居場所づくり」飯能市内小中学校に 5181 枚チラシ配布、飯能広報誌掲載 飯能市社会福祉協議会 Facebook 掲載 共助社会づくり Facebook 掲載 ・ 2月飯能市教育委員会の後援を得て「居場所づくり感謝祭」飯能市内小学校に 3 4 9 4 枚チラシ配布 ・ 会員 SNS にて発信 			

<p>4. 事業実施により達成した成果の具体的な内容</p>	<p>不登校のお子さんへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校のお子さんを持つご家族からご相談を3件頂けた。 また地域の方から心配なお子さんの情報も得られた。支援に繋がっている。 ・不登校の女子高生にメイクレッスンの体験学習を実施したところ、見る見る気持ちが変わりアルバイトを始めるまでになった <p>児童養護施設のお子さんへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在は月に2回の実施ながら、毎回決まったメンバーが来てくれるようになった。 ・施設の職員さんにアンケートをとったところ、子ども達が「今日はこんなことをしたよ！」などと楽しそうに話してくれているとの事。 ・子ども達から「次はいつ来るの？」との質問がでて待ち望んでいる様子が伺える。 ・コロナ禍で施設の職員さんも大変な思いをされているのが感じられる。少しでも助けられたかな？と自負している。 <p>地域の小学生のための放課後、学習支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共稼ぎ世帯の増加に伴い、小学生が一人で留守番している現状を回避できた。 ・10月より「居場所づくり」をスタート、地域の小・中・高・大学生、主婦、地域の方が集まる場所になった。 ・サイズアウトの子供服、文房具などの寄付も呼びかけ、かなり集まった。また欲しい方に持ち帰り頂けた。 ・障害をもったお子さんが居場所づくりに参加してくれた。他学校他学年の交流ができた。
<p>5. 費用面での工夫</p>	<p>出来るだけ計画に沿って実施を心がけたがコロナ禍で体調不良による変更、中止で難しかった。</p> <p>地域の小学生の体験学習については参加費を300円～500円収受した。</p>
<p>6. 地域社会への還元について</p>	<p>地域の小学生や小学生をもつご家族の居場所づくりをする事によって地域の繋がり、交流ができた。</p> <p>未来を担う子ども達に地域愛を育んでもらった。</p>
<p>7. 来年度以降どう事業を継続し発展させていくか</p>	<p>コロナ禍で経済的に疲弊している家庭が多くある。来年度以降も助成金に申請し、活動していく。</p> <p>参加費がかかるから参加できない状態を作らない。</p> <p>将来的には団体の収入を得るような事業を確立し地域に貢献するよう発展させる。</p>